

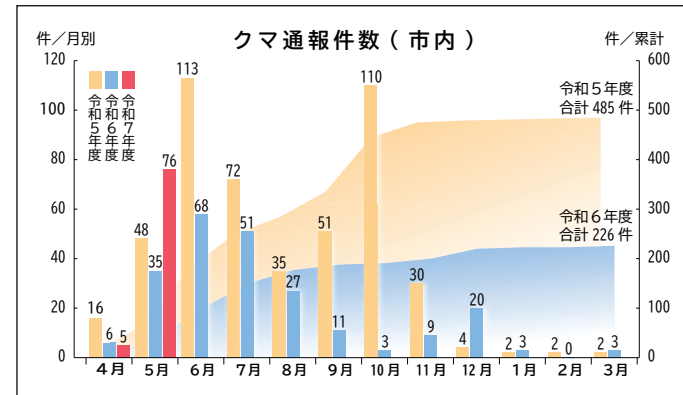


登山や山菜採りなどを目的に山に入る場合、クマと遭遇する危険があります。5月以降、例年よりも多くの目撃情報が寄せられているクマ。近年は山林だけの目撃に限らず、市街地にも姿を見せるようになってきています。山へ入るときや日帰り生活で出合わないようには、べつすればよいのでしょうか。もしも出合ってしまったとき、人身被害を未然に防ぐためにできることを考えましょう。

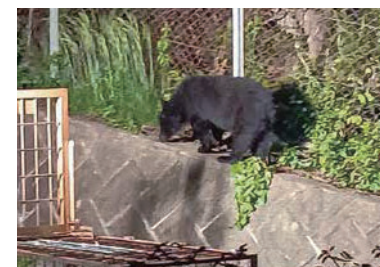
市内のクマの 出没状況

例年6月から8月にかけてクマの出没件数が多くなります。クマの目撃情報が多かった令和5年度には、485件が確認されました。グラフの件数を見ると、令和6年度は少し落ち着き226件でした。今年は5月末の時点で昨年同時期の件数を超えており、今後増加していくことが予想されます。

5月28日には、北上江釣子インターチェンジ付近にクマ1頭が出没。約



7時間その場に留まった後、ゆっくりフェンスを乗り越えて和賀川方面へ走って逃げました。今回の出没による被害などはありませんでした。豊かな自然に囲まれている当市では、クマなどの野生鳥獣との関わりは避けることができます。私たち一人一人



5月28日に北上江釣子インターチェンジ付近に出没したクマ

ができることを、また地域ぐるみでできることをしながら、人的被害を防いでいきましょう。

クマという生き物

クマは、目はあまり良くありませんが、耳や鼻がよく利き、足が速く、木登りが上手な動物です。基本的には人間を避け、普段はゆっくりとした動きで生活しています。

しかし、突発的に人間と出会うと、自身や子グマの身を守るため人間を襲うこともありとても危険です。また、蜂蜜やカキ、クリなどが好物の雑食で、食べ物が豊富なところを見つと、その場所につくつく現れることもあります。

子グマは特に注意 近くに怖い親グマが！

子グマは好奇心が強く、人間を恐れていないため、近づいても逃げないことがあります。かわい子グマですが、近くには親グマがいることを忘れないでください。親グマは子グマを守るために攻撃的なこともあります。

初夏のクマは怖い もし出合ったら

初夏はクマの繁殖期です。オスは非常に気が立っていて、緊張状態になります。

外に出る場合は、クマの出没情報のある場所に近づかない、熊鈴などで音を出す、複数人で話しながら歩くなど、人間の存在を知らせることが大切です。クマの出没が多い朝方や夕方方は、特に注意が必要です。万が一、クマと出合ってしまったら背中を向けず、クマから目を離さず、慌てず静かにゆっくりその場を離れてください。

本来、クマはおとなしく臆病な性格です。しかし、

・急に大声を出す
・物を投げつける
・背中を見せ走って逃げる

このような動作は、驚いたクマがパニックを起こす可能性があるため大変危険です。

自分たちや地域でできる対策

食べ物

クマの食料にならないよう、クリやカキなど実のなる庭木は早期に実を収穫する、トタンを巻く、電気柵で囲うなどの対策をしましょう。家庭ごみは収集日の朝に出し、バーベキューなどで出たごみは必ず持ち帰りましょう。



クマの隠れ場所

クマは、やぶなど人目に付きづらい場所を利用しながら行動します。見通しの悪いやぶや、耕作放棄地の増加もクマの出没確率を高めます。自宅の周りや、通学路周辺などの刈払いを積極的に行いましょう。



山に入る時も気を付けて

山に入る際は、複数人で行動したり、音のなるグッズや熊スプレーを携帯したりするなどの対策を行いましょう。



ツキノワグマの特徴



- 体長** 100 ~ 150 cm
- 体重** 30 ~ 100 kg前後
- 特技**
 - ・木登り、水泳、足が速い（短時間なら時速 50 kmで走る）
 - ・柔軟性があり、狭いところでもくぐり抜けることができる
- 習性**
 - ・逃げるものを追いかける
 - ・学習能力が高い
 - ・身を隠すものがない開けた場所や、人工照明のある明るい場所にはあまり行かない
 - ・主に、日の出と日没の前後に活動する
- 食べ物**
 - ・ドングリ、クリ、キイチゴ、ヤマグワなどの木の実、昆虫類、蜂蜜、花、山菜、タケノコなど
 - ・蜂蜜や果物など甘いものが大好き

■クマによる被害防止のためにモバイルメールの登録を

クマによる人身被害に遭わないためには、すばやく情報を得ることが必要です。市は「いわてモバイルメール」を活用し、位置情報も含めたクマの出没情報をお知らせしていますので、登録をお願いします。

クマ出没情報の入手方法

- ①スマートフォンなどで右記二次元コードを読み込み
- ②「受信登録する」をクリック→空メールを送信
- ③受信したメールの URL をクリックして登録完了



放置された果樹の伐採、やぶの刈り払いなど 地域ぐるみで対策を



岩手県農業普及技術課
農業革新支援担当
（農林水産省農作物野生鳥獣
被害対策アドバイザー）
中森 忠義 さん

近年、全国的に住宅街や通学路などでもクマが目撃されるようになり、人身被害も発生しています。

放置された果樹や未収穫作物、生ごみなどクマを誘因する要因を限りなく除去する方法により、不用意な遭遇を避けることができます。また、隠れ場所となるやぶの刈り払いや、樹木の伐採なども、地域で協力して実施しましょう。

同様の取り組みにより、クマの出没件数を減らしている事例が大槌町などにあります。